



「錦鯉」とは

「錦鯉」とは、色や斑紋があり観賞用に飼育している鯉の総称です。「錦鯉」は、平成16年10月23日に発生した新潟県中越地域からの復興の象徴として「小千谷市の魚」に制定され、また、新潟県のシンボルとして「県の鑑賞魚」にも指定されております。



錦鯉の始まり

錦鯉が始めて出現したのは、19世紀前半の江戸時代、文化・文政の頃と言われています。新潟県の二十村郷（現在の小千谷市、長岡市の一部）で食用として飼われていた鯉に突然変異で色をついた変わり鯉が現われたのが最初です。それから改良が続けられ現在の美しい錦鯉へと移り変わりました。



錦鯉の観賞

錦鯉の美しさの基準は、体形・色彩・斑紋の3つが基本になります。背筋が真っ直ぐでボリュームがあり均衡のとれた体形。鮮明で深みのある色彩。左右のバランスがとれた斑紋。これらを総合的に満たし、品位があるほど美しいとされます。

観賞棟

観賞池では、小千谷市で生まれ育った大きな錦鯉が大切に飼育管理されており、錦鯉の原産地ならではの優秀鯉20品種100尾余りが豪快な泳ぎをみせてくれます。



日本庭園

庭園は4つの池と2つの滝で構成されており、4月中旬から11月までオーナーさんの鯉が泳ぎ、季節の花とともにその華麗さは、しばし時を忘れさせてくれます。



資料展示室

資料展示室では、錦鯉の歴史、品種、飼育方法等が日本語・英語・中国語で説明されており、錦鯉の飼育や品評会の様子をビデオで(3ヶ国語)ご覧いただけます。また、錦鯉の稚魚なども水槽や写真で紹介されています。



館内図



当施設は、錦鯉の原産地らしく錦鯉に関する資料を展示しております。ご予約をいただければ係員がご案内いたします。

周辺情報

隣接しております小千谷市総合産業会館「サンブラザ」には、小千谷市の物産販売、手織り体験、食事施設等があります。(団体屋敷も承ります。)

